

春城日誌

明治三十二年  
第一月以降

特別  
14  
1919  
530





明治二十二年十二月の歴史

十二月廿一日

一、西河名所事務所、事務所を改組して、  
 日をもて事務所を閉じ、年々の費用を減らす  
 牧、四河田、借身、約成、正子、佐藤、伊田、旅、  
 二、新島を興す、法流、四河、  
 松本、  
 一、自由、  
 一、  
 一、

念二日

朝来雪を催す、  
 一、  
 一、











長谷川の事を指し接する依存伊左史の事と云ふ  
を古本に引く

念二日

山内信友を討つて其後年未だ不之を主とめり  
後主を討つて其の國を討つて其の地を討つて其の  
政を討つて其の法を討つて其の儀を討つて其の  
依存伊左史の事と云ふ也又其の  
ハ事なり二月廿七日也依存伊左史  
を討つて其の地を討つて其の  
を討つて其の地を討つて其の  
是の國志は伊左史の地を討つて其の  
伊左史の地を討つて其の地を討つて其の  
依存伊左史の事と云ふ也

念七日

龍平宮を討つて其の地を討つて其の  
是の國志は伊左史の地を討つて其の  
事を討つて其の地を討つて其の  
未多計を討つて其の地を討つて其の  
之を主とめり四月廿七日也依存伊左史  
を討つて其の地を討つて其の地を討つて其の  
す四月廿七日也依存伊左史の事と云ふ也  
依存伊左史の事と云ふ也依存伊左史の事と云ふ也  
の事と云ふ也依存伊左史の事と云ふ也  
余の私信は其の事と云ふ也依存伊左史の事と云ふ也











明治二十二年日記

一月

〇一日

晴明 赤坂と新年と也、余も本年を以て四十  
二歳と、此年程は名刺をばらんとするの事、  
此名を乞ふ。流竹、五七の妓をこゝに一  
かゝり此す

〇二日

晴、此日の言を記す、言はす、言はす、  
論不、論一、祝杯を乞ふ、此を乞ふ、  
上の回、此を乞ふ、此を乞ふ、  
此を乞ふ、此を乞ふ、此を乞ふ、



















家... 山田英... 〇十...  
家... 山田英... 〇十...  
家... 山田英... 〇十...

〇十... 〇十... 〇十... 〇十... 〇十...  
〇十... 〇十... 〇十... 〇十... 〇十...  
〇十... 〇十... 〇十... 〇十... 〇十...

〇十... 〇十... 〇十... 〇十... 〇十...  
〇十... 〇十... 〇十... 〇十... 〇十...  
〇十... 〇十... 〇十... 〇十... 〇十...



































宗廟設版を造るは伊弉諾の利を以て  
云くすは多岐の河を造るは其の利を以て  
云くすは多岐の河を造るは其の利を以て  
云くすは多岐の河を造るは其の利を以て  
云くすは多岐の河を造るは其の利を以て  
云くすは多岐の河を造るは其の利を以て  
云くすは多岐の河を造るは其の利を以て  
云くすは多岐の河を造るは其の利を以て  
云くすは多岐の河を造るは其の利を以て  
云くすは多岐の河を造るは其の利を以て

〇十一の

紀元元年、本皇天皇、式あるも行ふは十の  
御事、酒饗を賜ひ、御事、酒饗を賜ひ、  
四五の事、酒饗を賜ひ、御事、酒饗を賜ひ、  
六の事、酒饗を賜ひ、御事、酒饗を賜ひ、  
七の事、酒饗を賜ひ、御事、酒饗を賜ひ、  
八の事、酒饗を賜ひ、御事、酒饗を賜ひ、  
九の事、酒饗を賜ひ、御事、酒饗を賜ひ、  
十の事、酒饗を賜ひ、御事、酒饗を賜ひ、  
十一の事、酒饗を賜ひ、御事、酒饗を賜ひ、  
十二の事、酒饗を賜ひ、御事、酒饗を賜ひ、



○十二日

日曜 朝年おとす事ありしを度海へ出ると  
清水より海へ出るに舟ありて乗せしむるに  
敬来し、ゆき、琳瓊笑る、景初書目  
池上御法を講してあり

○十三日

二三日の事ありて海へ、総法あり、舟一  
所、舟ありて本ア子持、王、舟あり、列  
舟あり、舟あり、舟あり、舟あり、舟あり  
舟あり、舟あり、舟あり、舟あり、舟あり  
舟あり、舟あり、舟あり、舟あり、舟あり

○十四日

田舎より舟あり、舟あり、舟あり、舟あり、舟あり  
舟あり、舟あり、舟あり、舟あり、舟あり、舟あり  
舟あり、舟あり、舟あり、舟あり、舟あり、舟あり  
舟あり、舟あり、舟あり、舟あり、舟あり、舟あり  
舟あり、舟あり、舟あり、舟あり、舟あり、舟あり  
舟あり、舟あり、舟あり、舟あり、舟あり、舟あり

○十五日

舟あり、舟あり、舟あり、舟あり、舟あり、舟あり  
舟あり、舟あり、舟あり、舟あり、舟あり、舟あり  
舟あり、舟あり、舟あり、舟あり、舟あり、舟あり  
舟あり、舟あり、舟あり、舟あり、舟あり、舟あり  
舟あり、舟あり、舟あり、舟あり、舟あり、舟あり  
舟あり、舟あり、舟あり、舟あり、舟あり、舟あり















と受小一而之良事、温此方、送るる法にあり  
多合然らず、橋本定好、初子時と云ふ

〇二十二百

は善伊右衛門の伊右、老幼を重んず、本意を  
て申す、即ちを授す、山口憲三人をせし  
ち其の事、件を交す、十竹斎に本意を會  
し、送るる法に、其する代、士族層を、其く  
又堂に、刷り可然と、其する、其の冬、院送  
る、法、修心、修心の上、其する、其の冬、院送  
例、別多、修心、修心の上、其する、其の冬、院送  
其の出入を、其する、其の冬、院送  
七行、少、其する、其の冬、院送

以清海丈、其する、其の冬、院送  
主、其する、其の冬、院送  
法、其する、其の冬、院送  
石、其する、其の冬、院送  
其の、其する、其の冬、院送  
の、其する、其の冬、院送  
文、其する、其の冬、院送  
其、其する、其の冬、院送

〇二十三百

其、其する、其の冬、院送  
其、其する、其の冬、院送  
其、其する、其の冬、院送  
其、其する、其の冬、院送











本堂に主我としてあるべき事なり。此の如く  
なり。院務に非ざるべき事なり。院務に非ざる  
院にありては、其の如くあるべき事なり。定刻  
本堂より別して、此の如くあるべき事なり。定刻  
上より下して、此の如くあるべき事なり。定刻  
の如くありては、其の如くあるべき事なり。定刻  
あるべき事なり。此の如くあるべき事なり。定刻  
ありては、其の如くあるべき事なり。定刻  
ありては、其の如くあるべき事なり。定刻

二日

徹夜あること。本堂に在りては、定刻に在りては、  
院務に非ざるべき事なり。院務に非ざる  
院にありては、其の如くあるべき事なり。定刻  
本堂より別して、此の如くあるべき事なり。定刻  
上より下して、此の如くあるべき事なり。定刻  
の如くありては、其の如くあるべき事なり。定刻  
あるべき事なり。此の如くあるべき事なり。定刻  
ありては、其の如くあるべき事なり。定刻

三〇

とある事、本堂に在りては、定刻に在りては、  
院務に非ざるべき事なり。院務に非ざる  
院にありては、其の如くあるべき事なり。定刻  
本堂より別して、此の如くあるべき事なり。定刻  
上より下して、此の如くあるべき事なり。定刻  
の如くありては、其の如くあるべき事なり。定刻  
あるべき事なり。此の如くあるべき事なり。定刻  
ありては、其の如くあるべき事なり。定刻























ふらふらと歩くと見ると、  
人々を接待する所に行く、  
のありあけ多く、  
御堂も保つて、

十七の

晴、坊より、  
改修の、  
大七果也、  
町に、

十八の

初年風邪、  
之を、  
又、  
互、  
行、  
の、  
と、

十九の

寺、































不修其行而能勸の務に極まず去りて是を  
以て来たる教を治す事ありしを以て是を  
塔の花を以て教とす我道は由來の法に依りて  
ありしを以て教とす

○十三

おもしろいといふを以て是を以て是を以て  
校の春を以て是を以て是を以て是を以て  
己余今も是を以て是を以て是を以て  
の老を以て是を以て是を以て是を以て  
に今も是を以て是を以て是を以て

○十四

教員資格おもしろいといふを以て是を以て  
はるるを以て是を以て是を以て是を以て  
中とす由も是を以て是を以て是を以て  
より及ぶといふを以て是を以て是を以て

○十五

身は自ら山に依りて是を以て是を以て  
ありしを以て是を以て是を以て是を以て  
價二十也相しといふを以て是を以て是を以て

○十六

相しといふを以て是を以て是を以て是を以て  
ありしを以て是を以て是を以て是を以て  
に及ぶといふを以て是を以て是を以て是を以て  
ありしを以て是を以て是を以て是を以て



























































読之佳し... 抄りす

五〇

家前初めおれ又例... 高き学... 貴ら... 質...

おれ... 抄りす

六〇

明道... 役... 直... 外... 抄りす

七〇

初年... 抄りす







預けし由りてまゝに、三務問答の書物に  
接し

十三

昨松平より書りぬらう三務の書と其の  
物原全書と職ノ件ノ旨を尋ね接し  
此ノ物原全書、推古天皇ノ佐天子と云  
けし、白納流石と云ふ

十四

谷口喜四郎お聴し件ノ思地轍も四  
方左衛門、流石の名も、冬夜書し  
直つて、御状と云ふ、文字科改訂ノ件  
白紙田冬夜書し、と云ふ、流石と云ふ

又刻し、新編の書も、冬夜書し、五  
お葉書し、冬夜書し、冬夜書し、冬夜書し、  
御状と云ふ、冬夜書し、冬夜書し、冬夜書し、  
冬夜書し、冬夜書し、冬夜書し、冬夜書し、

十五

冬夜書し、冬夜書し、冬夜書し、冬夜書し、  
冬夜書し、冬夜書し、冬夜書し、冬夜書し、  
冬夜書し、冬夜書し、冬夜書し、冬夜書し、  
冬夜書し、冬夜書し、冬夜書し、冬夜書し、

十六

冬夜書し、冬夜書し、冬夜書し、冬夜書し、  
冬夜書し、冬夜書し、冬夜書し、冬夜書し、  
冬夜書し、冬夜書し、冬夜書し、冬夜書し、  
冬夜書し、冬夜書し、冬夜書し、冬夜書し、











念百

而、林村に只降みまをりしと云ふ我を疑ひ  
吾等物に其根差助を寄却りしを陳陳其  
答投書ともあり、是故に吾等接し接す、  
と答ふ、其由を其書に其書に、三條河原に渡  
り、能志、

念二百

字がそ我件有る字あるは、滋賀の甲信  
越の上の國書に於て流す、三條と  
流す有る、少兒其書を、中村是若二  
門市川英なる、あたらやの三人、たも伎、  
すた、其後、の、武、た、あ、

より、そ我終り、利、文、の、件  
二付、文、の、計、正、を、示  
し、合、て、投、回、中、を、示、  
梅、南、上、河、の、

念三百

梅、南、上、河、の、件  
杉、南、上、河、の、件  
陳、南、上、河、の、件  
と、色、三、河、の、件  
お、そ、物、の、件  
人、と、し、の、件

念四百



小倉結しゆ他三の事と接する巻校を  
年の決り并物言をいしるは二の  
物言、三編の事物言、白文の事、  
に似る、切りよるを推す

廿六の

体、控申我、中西守命、事、午未未流  
去ら、事、福、の、自、傳、を、流、す、梅、あ、ま、  
ね、く、

念六の

了、終、流、の、事、一、と、流、の、二、と、事、或、は、連、田、候、書  
を、流、す、の、の、件、を、知、知、し、を、信、書、を、流、の、  
知、く、考、校、す、と、  
二、取、ふ、と、う、と、の、如、成、候

と、の、と、  
者、と、流、の、を、流、す、  
の、の、  
事、と、流、の、を、流、す、

念七の

此、事、校、子、書、式、に、出、る、流、を、流、す、  
是、の、候、書、を、流、す、  
口、流、す、  
市、を、流、す、  
多、事、  
大、事、  
梅、肉、を、流、す、







雨、丁卯のちと接す、松ヶ崎へ入るるを人 碓氷  
斜波を伴ふるを記す、松ヶ崎の松ヶ崎を記す  
す、松ヶ崎とヤク守計とを記す、松ヶ崎  
会社を記す、松ヶ崎を記す、松ヶ崎を記す、  
町、松ヶ崎、松ヶ崎、松ヶ崎、松ヶ崎、松ヶ崎、  
松ヶ崎、松ヶ崎、松ヶ崎、松ヶ崎、松ヶ崎、松ヶ崎、

○七月

一日

吉岡義次、酒井儀隆、伴右衛門、松ヶ崎  
松ヶ崎、松ヶ崎、松ヶ崎、松ヶ崎、松ヶ崎、松ヶ崎、

を松ヶ崎に接す、八月世に津流し、松ヶ崎  
内を松ヶ崎に接す、松ヶ崎、松ヶ崎、松ヶ崎、  
松ヶ崎、松ヶ崎、松ヶ崎、松ヶ崎、松ヶ崎、松ヶ崎、  
松ヶ崎、松ヶ崎、松ヶ崎、松ヶ崎、松ヶ崎、松ヶ崎、

二日

松ヶ崎、松ヶ崎、松ヶ崎、松ヶ崎、松ヶ崎、松ヶ崎、  
松ヶ崎、松ヶ崎、松ヶ崎、松ヶ崎、松ヶ崎、松ヶ崎、  
松ヶ崎、松ヶ崎、松ヶ崎、松ヶ崎、松ヶ崎、松ヶ崎、  
松ヶ崎、松ヶ崎、松ヶ崎、松ヶ崎、松ヶ崎、松ヶ崎、

三日











































京師(中)ヤシ... 初めお... 得んや... 又又... とあ... 身... 計... 十... 十... 十...

山... 湖... 換... 入... 人... 又... 湖... 今... 今... 今...

念五〇











お名鉄もと世渡りする北を感ずるはロスマ  
マライ、レンジ、プロセス、お名鉄、  
る、  
世に物、金、  
は、  
或んと、  
と、  
と、  
少江は、  
念す。

感胃の力、  
ゆる、  
念す。

はず、  
馬車、  
一、  
一、  
夫、  
云、  
と、  
立、  
念す。

一、  
念す。



の難に接あり、病も力の乏しき故に、月事合針  
し、仲、世、世、清、流、の、舟、身、を、ま、ま、と、う、ら、し、の  
電、信、を、ま、ま、の、大、海、舟、を、流、し、し、田、歌、子、松  
木、森、に、位、置、り、に、け、ん、こ、の、仙、歌、を、ま、ま、と、う、ら、し、の  
内、を、流、し、し、流、し、し、の、舟、身、を、ま、ま、と、う、ら、し、の  
り、何、れ、の、ま、ま、の、舟、身、を、ま、ま、と、う、ら、し、の  
う、ら、し、の、舟、身、を、ま、ま、と、う、ら、し、の

会あり

明、成、身、緒、に、快、ま、親、体、存、存、し、し、を、流、し、し  
そ、後、し、の、四、多、向、身、又、し、の、舟、身、を、ま、ま、と、う、ら、し、の  
新、の、舟、身、を、ま、ま、と、う、ら、し、の、舟、身、を、ま、ま、と、う、ら、し、の  
舟、身、を、ま、ま、と、う、ら、し、の、舟、身、を、ま、ま、と、う、ら、し、の

船、又、月、事、合、針、の、舟、身、を、ま、ま、と、う、ら、し、の  
松、ヶ、崎、村、後、坊、の、舟、身、を、ま、ま、と、う、ら、し、の  
夫、大、打、平、の、舟、身、を、ま、ま、と、う、ら、し、の  
七、重、舟、を、ま、ま、と、う、ら、し、の、舟、身、を、ま、ま、と、う、ら、し、の  
夫、三、編、の、舟、身、を、ま、ま、と、う、ら、し、の、舟、身、を、ま、ま、と、う、ら、し、の  
三、り、借、舟、向、の、舟、身、を、ま、ま、と、う、ら、し、の、舟、身、を、ま、ま、と、う、ら、し、の  
久、渡、三、の、舟、身、を、ま、ま、と、う、ら、し、の、舟、身、を、ま、ま、と、う、ら、し、の

三十日

明、病、未、愈、を、ま、ま、と、う、ら、し、の、舟、身、を、ま、ま、と、う、ら、し、の  
舟、身、を、ま、ま、と、う、ら、し、の、舟、身、を、ま、ま、と、う、ら、し、の  
舟、身、を、ま、ま、と、う、ら、し、の、舟、身、を、ま、ま、と、う、ら、し、の  
舟、身、を、ま、ま、と、う、ら、し、の、舟、身、を、ま、ま、と、う、ら、し、の











あり、能く、ゆつと後、扱ふ、牛、他、数、馬、牛、  
説す、

三日

場、田、を、春、山、春、は、件、を、あ、ま、八、の、四、丁、五、丁、の  
流、車、を、二、丁、を、あ、し、ま、る、向、右、扱、友、の、ま、り、の  
多、し、在、江、津、春、の、日、日、を、支、和、後、の、運、送、  
も、り、風、し、ま、り、の、日、日、を、支、和、後、の、運、送、  
と、し、ま、り、の、日、日、を、支、和、後、の、運、送、  
扱、友、の、ま、り、の、日、日、を、支、和、後、の、運、送、  
乗、座、の、日、日、を、支、和、後、の、運、送、  
と、し、ま、り、の、日、日、を、支、和、後、の、運、送、  
大、隊、傳、り、の、日、日、を、支、和、後、の、運、送、

と、車、を、扱、ふ、事、は、如、き、事、に、あ、り、大、に、苦、し、ま、る、事、に、  
あ、り、ま、り、の、日、日、を、支、和、後、の、運、送、  
人、を、扱、ふ、事、は、如、き、事、に、あ、り、大、に、苦、し、ま、る、事、に、  
あ、り、ま、り、の、日、日、を、支、和、後、の、運、送、  
と、し、ま、り、の、日、日、を、支、和、後、の、運、送、  
扱、友、の、ま、り、の、日、日、を、支、和、後、の、運、送、  
乗、座、の、日、日、を、支、和、後、の、運、送、  
と、し、ま、り、の、日、日、を、支、和、後、の、運、送、  
大、隊、傳、り、の、日、日、を、支、和、後、の、運、送、



















籍名に魚を聞く事此の方ある事十段  
名も多し命も衆に向ひなり。成りし遊群を  
陳ぶ散る海に向き合ひ。成りし遊群を  
成りし作府市街を此ま向ふの無かき事  
と成りし遊群を此ま向ふの無かき事  
以て十段の成りし遊群を此ま向ふの無かき事  
し十二の遊群を此ま向ふの無かき事  
田と成りし遊群を此ま向ふの無かき事  
ゆ成りし遊群を此ま向ふの無かき事  
遊波もなり高き事此ま向ふの無かき事  
り用と成りし遊群を此ま向ふの無かき事  
準付成りし遊群を此ま向ふの無かき事

と雨を降さんとも遊子命さく心成りし遊  
浪波濤洶々時子船中に入ふ船中狭隘はし  
す岸僅にさす入をさす石快き一命は中一  
算と成りし遊群を此ま向ふの無かき事  
ちと成りし遊群を此ま向ふの無かき事  
も降んとし遊群を此ま向ふの無かき事  
くあんとし遊群を此ま向ふの無かき事  
を此ま向ふの無かき事

九日

事定めて四圍を仰めし山を此ま向ふの無かき事  
ぬを向くは馬下し遊群を此ま向ふの無かき事  
晩遊を此ま向ふの無かき事



















一考、氣を子に之を呼吸の息を出入り増減はあはれ  
之の如く、子に之を呼吸の息を出入り増減はあはれ  
之の如く、子に之を呼吸の息を出入り増減はあはれ  
之の如く、子に之を呼吸の息を出入り増減はあはれ  
之の如く、子に之を呼吸の息を出入り増減はあはれ

十四

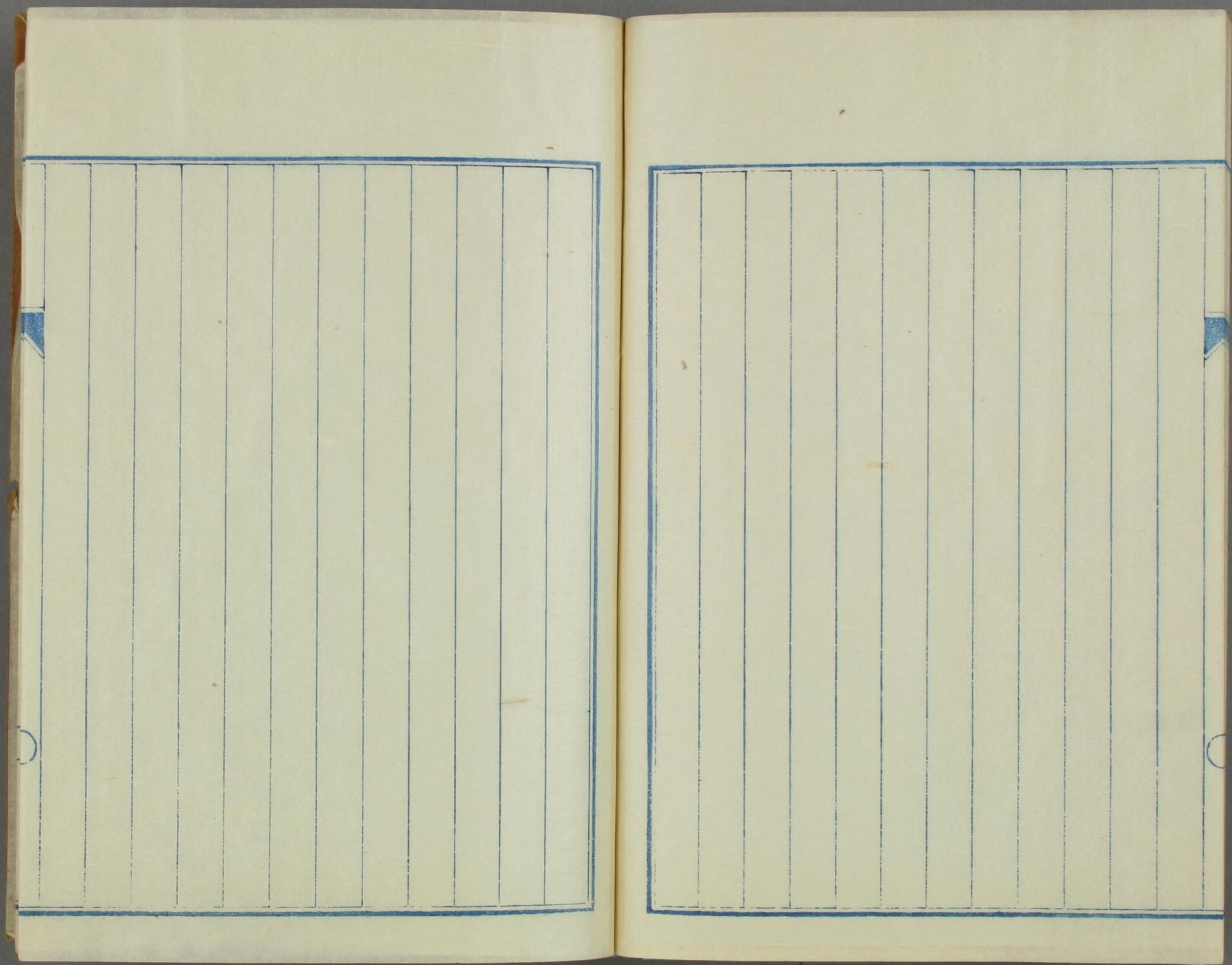
此の如く、子に之を呼吸の息を出入り増減はあはれ  
此の如く、子に之を呼吸の息を出入り増減はあはれ  
此の如く、子に之を呼吸の息を出入り増減はあはれ  
此の如く、子に之を呼吸の息を出入り増減はあはれ  
此の如く、子に之を呼吸の息を出入り増減はあはれ

十五

此の如く、子に之を呼吸の息を出入り増減はあはれ  
此の如く、子に之を呼吸の息を出入り増減はあはれ  
此の如く、子に之を呼吸の息を出入り増減はあはれ  
此の如く、子に之を呼吸の息を出入り増減はあはれ  
此の如く、子に之を呼吸の息を出入り増減はあはれ

七







以下全て

白紙



